

郷中だより

令和2年 7月21日
倉敷市立郷内中学校長発行
学校だより 第7号

朝から太陽がまぶしい月曜日。マスク姿で汗をかきながら校門で、「おはようございます。ふうー。」と一息ついて、また歩き出す生徒たち。これから夏本番を迎え、熱中症対策のためにマスク着用が必要ではない場面では、はずす指導も大切だと思いました。

フェイスシールド贈呈式



7月16日に、三菱自動車工業水島製作所の社員で結成された劇団「くるま座」の中村建治さん（郷内中学校元PTA会長）の発案で、郷内中にフェイスシールド250枚を寄贈してくださいました。生徒を代表して、生徒会長の久米さんが寄贈式でお礼を述べました。

【久米生徒会長のお礼のことば】

「僕たちの生活は、新型コロナウイルスによって大きく変わりました。学校ではマスク着用、ソーシャルディスタンスの確保などで、今まで普通にできていたことが制限され、給食もみんな前を向いて無言で食べたり合唱もできなくなったりして、息がつまりそうでしたが、フェイスシールドをいただき、今までどおりにできるが増えると思うととてもうれしいです。僕たちのことを考えながら手作りをしてくださったことに感謝して、大切に使用させていただきます。本当にありがとうございました。」

いただいたフェイスシールドは、全員の名前を貼って担任の先生から手渡されますので、授業やその他の活動で使わせていただきます。

3年生 先輩の話を聴く会



3年生の進路学習の一環として、「先輩の話を聴く会」が、17日の午後に行われました。本校の卒業生で、現在、香川県立多度津高等学校 水産科海洋生産科 3年生山縣弘汰さんを講師にお招きし、学校紹介や体験談をお話いただきました。

裏面に続く 



【山縣弘汰さんのお話から 一部抜粋】

「僕の場合は、幼い頃から父に釣りに連れて行ってもらった影響で魚が好きになり、中学生の時に、好きなことをもっと勉強したいと思うようになって、岡山県には水産科がなかったので、近くで水産科がある高校を調べてみました。そうすると、通学できる範囲の香川県にあったので、資料などを取り寄せていくうちに目標に近づいていけるように感じ、受験勉強にも力が入りました。今、皆さんの中には高校がまだ決まっていない人もいますが、自分の一生の中でたった1回の高校選択だと思うので、「自分が好きなことや飽きないことは何か」という視点で高校選択をしていくのもいいと思います。僕は今、好きな魚や海の生き物のことを思いっきり勉強できる環境にあり、充実した高校生活を送っています。ぜひ、皆さんにも自分が納得できる進路選択をしてほしいと思います。」

山縣弘汰さんは、私が学年主任をしていた当時の1年生でした。5年ぶりの再会でしたが、見違えるほど背も高くなっていました。何よりも印象的だったのは、はきはきとした口調と、きらきらした瞳で高校生活の話をしてくれたことでした。自分に合った進路選択ができると、こんなにも輝くのだということを改めて感じ、うれしい再会でした。

あいさつ運動

郷内地区の保護司さんが『社会を明るくする運動』の一環で、中学校で1学期に2回あいさつ運動を行ってくださいました。また、今年は倉敷保護司会創立70周年の記念の年にあたるそうです。日々の活動に頭が下がります。ありがとうございます。



言葉が人の心をつくる

教職に就いたばかりの若かった頃、気になった言葉や共感したフレーズを書き留めてアルバムに挟んでいました。「当時は、どんな言葉に共感したのだろう。」と古い机の引き出しの奥から出してみました。たくさんノートの切れ端に書かれた言葉の数々と自分の感想。その中に、『すべての子どもは、愛されたい・認められたい・言わせてほしいという願いをもっている。子どもにかける教師の言葉が、子どもの心をつくっていく。』という言葉がありました。そして、その下に私の反省文がありました。「クラスの子どもたちが大好きなのに、朝の会から帰りの会まで、教室に入ると叱っている私。何が不満なの？ ごめんね。たくさんいい面あるのにね。」と。ついつい自分のクラスに厳しい目を向けがちだったことを思い出しました。あれから数十年たった今、あの頃の生徒に感謝しながら、子どもたちの心に寄り添い、日々、教師である前に人として、感受性を磨いていきたいと思っています。